

同窓会報

(第43号)

発行: 〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
千葉県立千葉高等学校同窓会
同窓会長 霜 礼次郎
TEL. 043-227-7434
FAX. 043-221-4014
e-mail: master@chibako.net
印刷: 有限会社 プリントピア
TEL. 043-233-9671

新春を迎え

母校と同窓会が共に歩み

更なる発展を願う



同窓会会長 霜 礼次郎
(昭和31年卒)

同窓の皆様には、お健やかに新春を迎えられた事と、お喜び申し上げます。

昨年は、2020年東京オリンピックが決り、東北震災の被害に見舞われた日本に、明るいニュースが飛び込みました。想えば、戦後日本が、終戦処理と復興に、懸命に努力している時の昭和27年、新生日本が最初に参加した、ヘルシンキ・オリンピックに於いて、母校の先輩、石井庄八選手(昭和20年卒)が、レスリング競技で日本唯一の金メダルを獲得

されました。これは当時の日本全国民に明るく、又同時に、日本国民の底力を世界に知らしめた出来事であり、全国民が自信を取り戻す起爆剤となった事は、確かでもありました。これに答えるように、昭和28年には、母校は野球において、甲子園出場を果たしました。私が1年生の時であり、この二つのビッグニュースは、私にとりまして、生涯忘れ得ぬ事となりました。

さて私は、14年前、若輩にも拘らず、同窓会会長の大役を仰せ付けられました。当時の和久校長先生に相談し「何か同窓会とし

てお役に立てることがありますか?」とお尋ねしたところ、「これからの事を考えて、生徒が学ぶ教育環境の整備をして頂けませんか?」と申されました。そこで同窓会は、百二十五周年と言う節目に、同窓会の皆様に御寄付を募りましたところ、お陰様で目標額を達成することができました。そこでこの募金で、トレーニングルームをはじめ、プール跡地にビオトープを作り、同窓会記念館の改修等にも着手しました。更に記念事業を進めていくうちに、当時の県教育長さんから、中高一貫校の依頼があり、同窓会としても、周年行事の中に組み込む事に決定いたしました。旧テニスコートの場所に、中学校校舎と体育館が落成し、次は狭くなる運動場の拡充でありましたが、当時の校長先生の希望が通ったのか、隣りの葛城中との間の旧教育センターを取り壊し、そこに運動場を整備して使用したらどうかと言う事になりました。そこで同窓会

として、その整備費として再度、御寄付を仰ぎました。目標額に達成し、昨年暮れに着工の運びとなり、人工芝のグラウンドが本年3月末日までに、完成の予定であります。

この2回に亘る多くの同窓の志で、母校は大きく変革いたしました。各方面で、世界一、日本一の賞を受け、又柔道とラグビーが、全国大会へ駒を進めました。

現在、高岡校長先生の発案とデザインによる記念碑が、石井庄

平成25年度

千葉高校同窓会報に寄せて



校長 高岡正幸

千葉高校同窓会の皆様には、日ごろ物心両面から、多くの暖かい御支援をいただき、感謝申し上げます。いよいよ平成26年3月に、千葉中学・高校と6カ年を葛城の地で学んだ生徒が、高校から入学した生徒と一緒に卒業を迎えます。いわば記念すべき年度末となります。

また、同窓会の御支援で、葛城中学との間にあった旧総合教

八先輩の敬称と共に、尽力された同窓に対する感謝の念を込めて、校内に建立の運びとなりました事をご報告し、歴代の校長先生のご協力に感謝し、学校と同窓会が共に歩み、母校の更なる発展を祈念し、私の挨拶といたします。14年に亘るご指導、本当にありがとうございました。

尚、御寄付頂きました事業報告は、運動場の完成を待つて、事業報告書として、寄附者にお届けたいと考えています。

育センター跡地を、千葉中学・高校のグラウンドにする御寄付をいただき、3月には新グラウンドが完成する運びとなりました。少し贅沢ですが、周囲の住宅への砂塵の御迷惑を少しでも軽減すべく、人工芝のグラウンドを作っていただくことになりました。重ね重ね感謝申し上げます。

前回の同窓会報42号で紹介した以後の千葉中学・高校の近況について報告させていただきます

す。

3月8日には第3回千葉中学校卒業式を、滝本寛県教育長ご臨席のもと、挙行することができました。また、高校の卒業式は同18日、霜同窓会長のご臨席のもと、厳かな式を挙行しました。3月12日には、千葉大学医学部3年の船津君他9名の卒業生が来校してくれ、後輩たちに学部学科の説明会をしていただきました。4月29日、強歩大会がやつと天気に恵まれ、香取市役所脇の利根川河川敷から小見川少年自然の家まで堤防上約14キロを、中学2年から高校3年まで約1100名が歩きました。筑波山を背に、春のうららかな日射しの中を利根川の雄大な流を左に見ながら、合唱しながら歩いていったクラスもありました。

5月は快挙が連続しました。5日には、ラグビー部が準々決勝で市立船橋高校を破り、10年ぶりの関東大会出場を決め、翌月の関東大会1回戦で山梨吉田高校に快勝しました。

12日には、柔道部が団体で関東大会初出場を決めました。千葉中学校時代から専門家に指導を受けた生徒が主力で、嬉しい快挙でした。25日には、米国アリゾナ州で行われたインターナショナル学生科学技術フェアで、2年田中堯君が、日本人で初めて地球惑星科学部門で最優秀賞を受賞し、読売新聞全国版の「顔」という記事で紹介されました。6月1日には、囲碁部が全国高校選手権千葉県大会で3年森本、横須賀、1年山本君のチームが洪谷幕張を破り、団体戦で優勝し、全国大会出場を決め、女子個人では2年勝又さんが昨年に続き全国出場を決め全国では7位、将棋女子の部でも、1年加藤さんが長崎全国大会出場を決め、ベスト16に残りました。

秋には、ラグビー部の3年松雪君が国体少年男子千葉選抜に選ばれ、フォワードとして千葉県チーム3位入賞の原動力となりました。中学校陸上部は、新

会報に寄せて



同窓会副会長

永田 忠以

(昭和44年卒)

これまでも同窓会による記念事業には幾つかたずさわって参りましたが、この度は同窓会新運動場の整備がいよいよ着手するに至りました。この整備工事に際し先駆けまして、平成25年11月16日に地鎮祭を執り行いました。同窓会関係者をはじめ、

人戦千葉市内大会で、少数精鋭ながら、男女総合優勝を果たしました。

また、本校卒業生による後輩への講演等において、中学生には、東工大の岡真教授(高23回)、元矢崎総業副社長の根岸哲氏(高7回)、高校生には乾健太郎東北大教授(高37回)、毎年中心になってお世話頂いている岡崎真さん(高41回)他10名の方々。大変お世話になりました。同窓各位の期待に応えられるような人材に成長するよう、教職員生徒共々、励んで行きたいと思えます。今後とも葛城の丘で切磋琢磨する若人に今後とも声援とご協力をお願いいたします。

設計、施工、地域関係者と十数名の参列のもと、鋤入れを行いました。私は同窓会副会長の立場ではなく、神明奉仕という斎主の立場でこの祭儀を司ることができましたことを大変光栄のことと思っております。数多くある同窓会関係の思い出にまた良き思い出が増えました。

新運動場予定地地鎮祭に参列して



同窓会副会長

鈴木 一郎

(昭和35年卒)

長い歴史と伝統のある我が母校が中高一貫という教育の場となり、その環境をより充実させるためにこのような運動場が設けられることは現役生のみならず同窓生にとってもこの上なく喜ばしいことと存じます。来春の落成が非常に待ち遠しく思っております。

きまして今後とも変わらぬご助力を賜りますこと御願ひ申し上げます。私は「葛の花会」奥井会長の退任にあたり、後任として引き続き微力ながらも母校の発展のために活動していくことになりました。これまで同様、同窓生の方々とともに母校を支えて参りたいと思えます。この会報にあたり、これまでの御礼とこれからのご挨拶とさせていただきます。

千葉高同窓会の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年の敬老の日に総務省は人口推計値として、65歳以上の高齢者人口は3186万人、総人口1億2726万人に占める割合が25%、4人に一人が高齢者となったと発表しました。

この団塊の世代が75歳の後期高齢者となる2025年以降は、医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれ、医療を提

供する者にとっては、この25年に向けて大きな対策が求められているところです。

一方で医師不足、看護師の不足は顕著で、相変わらず内外とも問題山積みですが、それでも昨年決まった2020年の東京オリピック・パラリンピック招致や、景気の動向も良さそうで、千葉高同窓会の皆様におかれましては、なんとなく明るい気持ちで新年をお迎えの事と思えます。

千葉県立千葉中・千葉高教育環境整備支援事業の一環として進

められてきた、新運動場整備事業もおかげ様で目標を超える寄付金があつりました。詳しい経過は千葉高同窓会ホームページ(<http://chibako.net/>)に掲載されていますが、土岐紘史氏(県庁OB・昭35卒)を委員長とする新運動場整備実行委員会のお力で、設計は株式会社千都設計事務所、工事は日本体育施設株式会社に決まりました。

そして昨年の11月16日土曜日、まさに秋晴れの大安の日に地鎮祭が行われました。運動場予定地の中央に四隅に青竹を立て、その間をしめ縄で囲った祭場が設けられ、阿佐事務局長、実行委員会の方々と、自治会長さん、工事関係者の皆さん等が集まり、永田忠以宮司(同窓会副会長)が祭主を務め、厳肅に工事の安全を願う儀式が肅々と進められました。修祓の儀で参列者やお供え物を祓い清められ、次いで降神の儀で、祭主の「オオ〜」の声で神様の降臨が告げられると、思わず身が引き締まります。私も会長代理として鉄入の儀の榮譽を許され、工事の安寧とこれから、ここで走り回る生徒達の安全を心から祈念しました。

直接の隣接する葛城中学校は私の母校で、そこで元気に遊ぶ野

球少年をみていると遠い遠い昔が思い出され、また草花々のこの荒地が立派な運動場に生まれ変わり、これからの社会を担う立派な人材が育って行く未来を思うと、われわれ同窓会も本当に良い事業をしているのだとしみじみ感じたりした。

改めて寄付をいただいた千葉高同窓会皆様の母校愛の強さ、そして同窓会の絆の強さを改めて感じているところです。

同窓会の皆様には本年もご健勝でお過ごしいただきます様お祈りいたします。

オリンピック雑感

同窓会副会長 檣部健夫

(昭和44年卒)



2020年オリンピック・パレルピックの東京開催が決まりました。大変うれしく思います。

2020年の東京大会スローガンは、Discover Tomorrow(未来(あした)をつかもう)です。これは、いろいろな立場からの切り口があると思いますが、競技施設を造る観点からだと、減築が一つのアピールポイントになるそうです。減築は増築の反対で、オリンピック終了後建物規模を縮小し維持管理費の減少や耐震性の向上を図るもので、コンパクトシティ

(都市全体をコンパクトなスケールに締め、利便性の向上と税金の支出を抑える考え)と同じものです。たとえば、東京辰巳に建設する水泳競技場は、大会終了後に収容人数を2万人から5千人に縮小し、国内・国際大会にも活用するほか、住民にも使いやすくするそうです。もっともこの考えは、すでにロンドンオリンピックの施設でも取り入れられています。2020年東京オリンピックで日本の建築界がどんな新しさを世界に発信できるか、個人的に興味深いものがあります。

ところで、千葉高とオリンピックと言え、昭和27年のヘルシンキオリンピックで戦後初めての日本人金メダリストとなったレスリングの故石井庄八氏が千葉高出身(昭20年卒)であることは皆さんご存知のとおりですが、他にオリンピックに参加した同窓生としては、平成4年のバルセロナオリンピック・ライフル射撃監督として参加された現同窓会会長の霜礼次郎氏以外は、寡聞にして存じません。もしご存知の方がいらっしゃいましたら、ご教示頂ければ幸いです。

もっとも、前回昭和39年の東京オリンピックでは、聖火リレーの走者として千葉高陸上部のOBと現役生が参加しています。

新運動場が次年度から使えます

同窓会事務局 阿佐幸雄

(昭和35年卒)

寄附は目標額を達成!

平成24年5月に7,500万円を目標に同窓諸氏へお願いを開始しました「運動場拡充のための募金事業」は、同窓会ホームページに掲載しておりますように、平成25年4月末までに、7,721万円余の募金があり、見事に目標を達成いたしました。

これも「後輩に明るい未来を贈ろう」という同窓生皆様のご協力ご支援のお陰と厚く御礼申し上げます。

同年10月7日、前夜千葉県庁に泊まった聖火を、県庁から千葉駅入り口までの1.8kmを故松木忠良氏(昭39年卒)が、そのあと共済海の家跡までの2kmを富永明彦氏(昭40年卒)が、トーチを持ってそれぞれ22名の伴走者とともに走っております。

さて、2020年大会では千葉高生・同窓生はどの様な形で参加することになるのでしょうか。日本を代表する選手としてでしょうか。大会を運営する立場としてでしょうか。あるいはまた市井のボランティアとしてでしょうか。楽しみに待ちたいと思います。

中でも3000万円のご寄附を頂いた松原建設株式会社代表取締役の佐川信夫様(昭33年卒)、募金締切り日に不足額の333万6千円をお振込み頂いた(株)アンターク本舗代表取締役の黒須浩一様(昭37年卒)には本当に感謝しております。

せていただきました。
最終的には事業報告書を作成し、寄附者の皆様にご報告する予定です。

整備実行委員会を新設

昨年2月の総会で新設をご承認いただきました「新運動場整備実行委員会」は、5月21日に同窓会役員会を開き、県庁OBの土岐紘史氏(昭35)を委員長に任命し発足しました。

5月28日には土岐委員長より長谷川友善氏(昭36)、神代隆史氏(昭47)の2名を副委員長に、佐川信夫氏(昭33)を顧問に、秋葉直人氏(昭45)、中学校の体育科教諭、阿佐事務局長(昭35)、永井健事務局長を委員に任命して新運動場整備実行委員会は発足しました。以後6月1日より12月までに13回の実行委員会を開催。また、県庁財務施設課と4回の打ち合わせ会を開催し、生徒に最適なグラウンド造りを目指した活動を行ってまいりました。活動状況は次ページの「実行委員会活動報告書」をご覧ください。

6月初旬、設計委託仕様の内容を検討して、6月末に設計事務所の入札を行い3社の中より千都設計事務所と設計監理業務委託契約を締結しました。

新運動場は砂入り人工芝

県財務施設課との打合せでは、紆余曲折がありました。近隣の砂の飛散苦情などを考慮

して、19ミリの砂入り人工芝に決定しました。予算の関係で長い人工芝は使用できませんが、砂が飛ぶことも少なく、雑草が生えることもない点が優れています。

7月～9月まで設計業者と共に財務施設課と打合せを重ねながら設計内容の検討を続けました。10月には施工業者の選定作業に入り、11日に指名競争入札通知書を送付。17日現場説明会を行い、25日入札、28日開札を行い、31日に日本体育施設と契約を締結いたしました。

10月17日に地元近隣の方々への説明会を学校の大会議室にて開催しました。施工業者と設計業者より説明を行いました。防球、防砂ネットの色、柱の位置などを現地で打合せを行うことになり、工事前調査と事後調査も行うよう希望があり、対応することになりました。

11月17日に新運動場の無事竣工を願って地鎮祭を執り行いました。同窓会役員(鈴木副会長、阿佐事務局長)、実行委員会(土岐委員長、神代副委員長)、設計事務所、施工業者、地元町会役員が出席しました。神官は永田忠以同窓会副会長が執り行いました。

12月9日約1ヵ月遅れで現場事務所が出来、いよいよ工事が開始しました。当初は2月末竣工の予定でしたが、天候や近隣の調整等もあり、3月末までに竣工するよう努力しております。

竣工祝賀会を開催

丸3年間行ってまいりました「新運動場整備事業」もいよいよ完成を迎えます。10万円以上ご寄附の方は竣工碑にご記名いたします。また、20万円以上ご寄附頂いた方には、祝賀会にて感謝状の贈呈を行います。

該当者には詳細が決まり次第ご案内を差上げます。

新運動場竣工祝賀会

■月日 平成26年3月30日(日)

■会場 ホテルプラザ菜の花

*時間・会費等詳細は未定

支部だより

☆長生茂原葛城会

会長 永野 剛

(昭和26年卒)

10月5日・土曜・5時・一茂にて25年度総会開催。来賓外山教頭先生、阿佐事務局長さんをお迎え、出席者16名。来賓の教頭先生が変わっただけで昨年同様と思ったのですが、大変な間違いでした。席上、昭和20年卒の近藤和男先輩が風邪で欠席との事、お大事にと思った一週間後、突然の葬儀との計報でした。茂原地区設立総会からの貴重な方を失ってしまいました。私の四十年に渡る事務局の間、「帰りに入

幕」もあるので等と冗談を言い、何度も会長をお願いしたり、会のご故事を伺ったり、総会の度、大変お世話になっていた当会の生き字引でした。

設立総会から自書する出席者名簿に向かうと、前ページの楽しかった過ぎし時と、もう始まっている今日の期待に我が名を書き加え、心弾む葛城会が始まります。昭和25年卒佐川勝也氏から44年卒森茂氏まで、新会員も毎年参加、本部・学校からも遠路足を運ばれ、会は楽しく58回を数えます。全員の四方山話から阿佐局長・母校併設中グラウンド拡充苦勞事業の伺うほどにジェ・ジェ・ジェの増える吃驚談まで笑顔が絶えません。高校卒業一年後に開かれる同期会への本部後援事業が長生茂原葛城会の会員増まで広がることを願ひ、藤井誠氏の鮮やかな音頭で中学校歌・応援歌・凱旋歌を賑々しく歌い、59回へと続けました。

☆東金葛城会

幹事 岸 本雅邦

(昭和39年卒)

第35回東金葛城会の総会は平成25年4月7日東金の割烹料亭志津本で17名の会員の皆様に出席をいただき開催致しました。



平成25年度 新運動場整備実行委員会活動報告

年月日	会 議 名	内容及び概要
1月19日	平成25年度同窓会理事会	「新運動場整備実行委員会」設置を提案し承認された。
2月9日	平成25年度同窓会総会・懇親会	「新運動場整備実行委員会」設置案が承認 委員長は会長一任。副委員長、委員は委員長に一任
5月21日	千葉高同窓会役員会	新運動場整備実行委員会の構成について検討。 実行委員長に千葉県OBの土岐紘史(S35卒)を選出。
5月28日	実行委員会構成、規程の制定	委員長より、長谷川友善(S36卒)、神代隆史(S47卒)の2名を副委員長、 佐川信夫(S33卒)を顧問。秋葉直人(S45卒)、中学校の体育科教諭、阿 佐事務局長、永井事務長を委員に選出する。 実行委員会規程を定める。
6月5日	第1回新運動場整備実行委員会	同窓会役員と正副実行委員長が学校側と打ち合わせ会を行い、運動場 の使用方法や希望の整備状況を聴く。
6月7日	第2回新運動場整備実行委員会	県内の受注ランキングより設計業者の選定作業を行う。大手3社を選 定。
6月11日	第3回新運動場整備実行委員会	「設計委託仕様書」の内容を協議検討。
6月13日	「設計委託仕様書」の発送。	「設計委託仕様書」等を発送し、入札への参加依頼を行う。入札期限は 6月末日。
6月28日	財務施設課への表敬訪問	学校長と事務長、実行委員長と同窓会事務局長が県財務施設課を訪問。 同窓会から学校、県へ寄付する場合の手続きについて詳細に説明を受 ける。
7月5日	第4回新運動場整備実行委員会	6月末日での入札結果の報告並びに設計業者の決定。
7月17日	第5回新運動場整備実行委員会	「設計・監理業務委託契約書(案)」の内容の検討・協議。設計料の支払 条件を決定。
7月23日	第6回新運動場整備実行委員会	千都設計事務所と業務委託契約を締結。
8月1日	第7回新運動場整備実行委員会	設計事務所より3種の設計図面と設計金額の提示を受ける 設計内容を検討する。
8月8日	第8回新運動場整備実行委員会	第7回で修正意見が出た部分を修正し、学校と打ち合わせる。
8月23日	財務施設課との第1回会議	設計事務所と県財務施設課と運動場整備について協議
9月4日	第9回新運動場整備実行委員会	財務施設課との第1回会議を受けて、変更した図面、メンテナンスコ スト等の積算について、設計事務所と協議。
9月5日	財務施設課との第2回会議	事費比較表とイニシャルコスト比較表を提出。 財務施設課は子供の健康面から天然芝が最適。学校希望は砂入り人工 芝で、結論を急ぎたいと要望する。次回18日に結論。
9月18日	財務施設課との第3回会議	財務施設課は砂入り人工芝で了承。 9月末までに図面を完成、寄附の申請を行うので、11月着工ができる ようお願いした。
9月27日	財務施設課との第4回会議	設計事務所と財務施設課とで最終確認作業を行う。
10月2日	第10回新運動場整備実行委員会	財務施設課との第4回会議で決定した図面、積算について設計事務所 より説明を受ける。施工業者の選定作業を行う。
10月4日	同窓会より県へ寄附申請書提出	設計事務所より最終図面を受領。同窓会より寄附申請書を学校へ提出。 (役員名簿、委員会規定、経過報告書を添付)
10月11日	指名競争入札通知書発送	指名した業者に対して、指名競争入札通知書を発送。 現場説明会は10月17日 14:00～
10月17日	第11回新運動場整備実行委員会	千葉高大会議室にて現地説明会を行う。10社参加。 その後、現場に移動し、現地説明。 入札は、郵送で10月25日(金) 開札は、10月28日。
10月28日	第12回新運動場整備実行委員会	実行委員会の土岐委員長により開札を行う。 入札には6社が応札、日本体育施設株式会社に決定。
10月31日	工事委託契約締結	日本体育施設株式会社と同窓会で契約を締結。
11月7日	近隣説明会	新運動場近隣住民の方々、日本体育施設と千都設計事務所より工事の 概要を説明。後日各戸の建物調査も行う。
11月16日	新運動場地鎮祭	同窓会役員、実行委員会、設計事務所、施工業者、地元町会が出席し行う。 神官は永田忠以同窓会副会長
12月9日	現場事務所設置	現場事務所を設置、工事開始。
12月27日	第13回新運動場整備実行委員会	施工スケジュールの確認。

又当日はゴルフコンペも行い丸一日同窓と遊び、飲み、楽しい有意義な時を過ごす事が出来ました。

会の現況ですが、本会の本村卓会長(昭和31年卒)は平成25年度春の叙勲で瑞宝小綬章を受章しました。益々の御活躍を期待致します。

なお平成26年の東金葛城会の総会は4月20日の予定です。

☆木更津葛城会

会長 樋田英剛

(昭和40年卒)

今年は、前回の懇親会時、一年置きに開催する事が決まりましたので、活動を行っておりません。

今は、学区廃止により毎年20名から30名の会員が、この地区から出ております。

既に、300名を超える会員に対しての通信手段に問題があり、次回総会の進め方を考えるに当り悩んでおります。

そこで、諸先輩の良きお知恵をお借りして、アドバイスをお願い致します。参考に来年の総会・懇親会を計画し開催致します。

また、同窓会報の配布方法についても今後の問題として上げて置きます。

☆成田・佐倉合同葛城会

佐倉葛城会 山田敏夫

(昭和42年卒)

平成25年の成田・佐倉合同葛城会は、12月1日(日)にウィシントンホテル・ユウカリが丘で開催いたしました。

懇親会には、来賓として高岡校長、阿佐同窓会事務局長、吉岡船橋葛城会会長をお迎えし、成田13名、計36名の参加がありました。

懇親会に先だつて作詞家・伊藤アキラ氏(昭和34年卒)の講演を頂きました。伊藤氏は、「この木なんの木」「青雲」など数多くのCMソングを手掛けられておられます。それぞれの作品を聞



きながら、そのエピソードなどを紹介され、大変楽しく興味深いお話をしました。
来年以降も合同で開催していく予定です。

☆千葉市役所葛城会

会長 中臺公明

(昭和48年卒)

我々千葉市役所葛城会は、約100名のメンバーで構成されております。総会は、毎年、千葉高校同窓会総会の後に開催することが恒例となっております。本年度は、2月13日を予定しております。

昨年度は、昨年2月13日に、「割烹早坂」で約30名の出席により開催されました。当日は、当時の同窓会学年幹事の池上保健所長より同窓会総会について報告された後に、和やかな雰囲気の中で、普段交流する機会が少ない方々と、世代を越えた親交を深めることができました。

公式行事は、総会のみですが、近年、若手職員は、女性の割合も増えてきたということもあり、若手女性職員を中心に「女子会」なるものを開いているときいております。今後は、総会以外にもこのような機会が増やせていければと考えております。

☆県庁千友会

田谷徹郎

(昭和50年卒)

県庁千友会の平成25年度総会は、11月6日に、県庁近くの「ホテルプラザ菜の花」で霜禮次郎同窓会長、高岡正幸校長のご出席をいただき、和やかな雰囲気の中、盛大に開催されました。

千友会も発足以来46年を重ね、今年度も新たに13名の新入会員をお迎えし、会員数も約250名を数えるに至っております。県庁にも多くの職域同窓会がありますが、その中でも有数の規模を誇る会だといえます。

総会は年に一度の顔合わせと懇談の場ですが、同じ学び舎を巣立ち、同じ職場に勤務するという親近感は何物にも代え難く、年齢を超えて楽しく歓談する時間を過ごすことができました。最後に「袖ヶ浦辺の明け暮れに・・・」参加者一同、校歌を高らかに斉唱し、来年の再会を誓い、お開きとなりました。

☆東京葛城会

齋藤則子

(昭和54年卒)

平成25年10月24日第54回東京葛城会が開催されました。

直前まで、台風を心配しまし

たが、天候も回復し、霜同窓会会長、高岡校長、越川先生、吉野先生をお迎えし、昭和22年卒(平成12年卒までの33代、百余名の集う会となりました)。

今年の学年幹事はのんびりで、打合せは、高校時代の思い出話で盛り上がり、肝心の仕事は遅々として進まず、最後2週間、同期参加者を増やし、イベントは、思い出のDVDを放映すること何とかなりました。

そして当日、「東京葛城会の法被」のお出迎えで「なんだか楽しそうだね」と笑顔で始まり、「終始和やかなムードで、よい会だった。」との感想をいただき、学年幹事一同、本当にほっといたしました。

法被を手配いただいた昭和47年卒、引継のお世話になった昭和53年卒、幹事会の諸先輩方そして、何より、小雨降る中参加してくださった同窓の皆様から御礼申し上げます。

☆千葉高若手交流会

東 寿浩

(平成12年卒)

さる平成25年10月5日(土)に、第3回千葉高若手交流会を諸先輩方のご支援の下、開催させていただきました。平成卒の卒業生を中心に約80名の参加者が集



い、大半の方がそのまま二次会まで参加されました。今回設けたプレゼンテーションタイムでは、多くの参加者が自己紹介をして下さり、ご自身のお仕事や取組、これからの行事のご案内などをされていました。

千葉高卒業生の多様な活躍ぶりを再確認することができ、大変刺激的な時間でした。千葉高を通じて得た人脈を社会にどう還元していくか。若手卒業生一同、それぞれのフィールドで頑張っていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

OB会だより

☆ラグビー部OB会

OB会会長 長 英連

(昭和52年卒)

前号では40周年記念行事をご紹介しました。今回は2013年の試合の観戦・応援記を紹介します。

1・2月の新人戦において、強豪市立船橋高校に勝利し、ベスト4になりました。続く4・5月の関東大会予選でも再び市立船橋高校に勝利しベスト4、10回目の関東大会出場(千葉県市原市で開催)となり、関東大会では記念の表彰もされました。7・8月の市内大会では、決勝で千葉北高校に勝利し、優勝。全校大会(花園予選)では、ベスト4以上を目指し、最終調整してきましたが、ベスト4をかけ3度、市立船橋高校と対戦、結果は悔しい逆転負けで、主要3大会ベスト4以上とはなりませんでした。

各大会とも、多数の保護者、OB、関東大会予選、全国大会予選には高岡校長先生も駆け付けていただき、春は歓喜を、秋は悔しさを伴に味わいました。



関東大会の出場

ました。それに加え、秋の大会には、多数の現役同級生が応援に来て、ラグビー部メンバーの勇気を奮い立たせて貰いました。多数の応援の下で、試合ができる喜びは勝敗とは別の大きな財産となりました。

OB会としても、多くの応援が頂けるチームを支援する甲斐を大いに感じています。現3年生は3月を過ぎれば、県千葉ラグビー部のOB、千葉高校同窓会の会員になります。現役の活躍があつて、喜びを伴にできるOBであります。

我々ラグビー部出身者はOB会活動を通じて、同窓会活動にも貢献してまいります。

学年短信

●昭和17年卒

篠崎兵衛

憧れの千葉中の服装は白線の入った制帽に黒小倉の綿服。編上げの制靴にゲートル(巻脚絆)で軍隊調だった。教科は修身公民・英・数(代数・幾何)国・漢・物理・化学・生物・地理・歴史・体操・武道(柔か剣)それに教練(軍事体制が進む世で厳しいものだった。)

当時も進学率は県内随一。部活も盛で県大会優勝は当然という部が多かった。十七年会には昔大活躍した者が数名健在だ。

然し乍ら年令には勝てない。出席減と幹事の負担を考慮して、9年前80才で34人の出席者が総会を終わりとした。

その後終身幹事のうち3人が次々他界して私1人が残った。計報と年賀遠慮の整理が当面の仕事で淋しい十七年会です。

●昭和20年5卒(新葉会)

松崎一康

総会は4年前の17回で終了。世話人会は「新葉会有志の集い」として希望者も含めて継続。西千葉駅近くの気楽な店で年数回

実施。7月6名、10月8名参集。国文教科書、昭和16年の校友会誌、17年と18年の報国団誌などで往時を偲ぶ。

12月は7名、千葉高HPの住所不明者リスト検討・同窓会報学年短信7回分のコピー配布・生徒必携(候文の諸願届書式あり)を回覧。忘年会を行った。

最近の同窓会組織と活動の充実是有難い。貴重なデータベイスは母校の現状・同窓会の動向などを理解し、交流の枠も広げる。孫娘のアクセスで不明者が登録したことを、阿佐事務局長さんの連絡で知ってメール。60数年ぶりの交流に感激。

関係各位のご尽力に感謝し、益々の発展を祈る。

●昭和20年4卒(禄寿会)

猪田昭三

禄寿会(60回卒業生)の総会・懇親会は例年通り6月10日に一番近い日曜日の6月9日(日)に波奈本店で行われた。

卒業生250名中生存者88名、出席者16名であった。85才の高齢で夫婦共に足腰悪かったり病気が持ちやうでここ数年参加者が減るが続ける希望ばかりである。

話題はどうしても昭和20年3月末繰上げ四年卒業の予定年、通年学徒勤労動員の鉄道省千葉管理部の話。特に新小岩機関区

での東京下町のB29による絨毯爆撃の事になる。今年は勝田房治君の当時の日記3月9日、10日のコピーを見乍ら市川橋の枕木が燃える上を通過した事等に終止する。今年予定は6月8日である。

●昭和22年卒

斎藤 喜久三

恒例の6月2日(土)に第46回千中第61、62期生の同期会を西千葉「みどり」で開催、今回は各兄の都合で27名と昨年より10名も少なく開催以来最少であったが中には出席希望なれど急な腰痛で不可能とで5名程が非常に残念がっていたのを考えると如何にこの同期会を楽しみにして



いたかが理解出来る。皆相変わらずの戦争中の入学なので意気盛ん、旧談に異様な熱気が会場に溢れていた。それも理由は今回は季節柄生のビール呑み放題としたので大評判となり前述の欠席者の残念がる事でした。今回は皆勤賞?の黒髪先生こと早川先生も都合で出席出来なく、いつもの生徒?達の発破がなく少々がっかりした。早いものであと3回で米寿が来るとは良くも46回も諸兄が参加してくれたと振り返ると誰彼となく時間も少しとれる様になったので隔年に同期会をしようの発案がこれも大当たりですますの絆が広がった原因でしょう。

「身近から広げよう同期会の輪」

席上我々もあと前述の如く3回の同期会となり後輩達への心配が出て来たが、老婆(爺)心乍ら唯一の同窓の絆である同窓会報では寄稿欄で昭和50年より平成11年まで何と25年間の空白があり皆から後輩達よ母校の為に同期会を活潑にせよと心配している事を本欄で呼び掛けたい。最初は少ない人数でも年が経つにつれ人生で最も繁忙かも知れないが多くの友との交流なる同期会を是非とも呼びかけを願いたいものです。

昨年の会報で見たのですが母校同窓会の財源は高校の三年間の現役の時に合計5千円を入会

金としているが160万円があるのみで大先輩の寄付で基金はあるものの我々卒業生としてこのままでは同窓会の諸費用に對して最終的には涸渇してしまう状況になり兼ねないので今回の同期会にて25年度より開催時に1名当り500円を捻出して約2万円を実行することにして同窓会へ寄付とし会費的な事とする。

昭和20年度の大先輩同期会(緑寿会)では以前より毎年2万円寄付されているので先輩方に遅滞き乍ら承継します。どうぞ後輩諸君よ同期会を盛んにして下さい。長年の経験で良い様々な事が宝物の様に出来て来ます。強いては母校同窓会の強力なる礎となるのです。

●昭和25年卒

矢島 肇

前号会報を通し発表した通り、我々同期は今年を以て永年恒常的に行つて来た同期会を止めた。最後の会から半年が過ぎたが、これがこれ迄と違って同期会の連絡迄遮断するとは思って

もみなかった。従来、他の学年に勝るとも劣らなかつた連絡の密、絆の深さは断ち切れてしまった。同期の集いが毎回あって、これを中心

止める事はなかった。歩行困難者も病弱の人、この会を楽しみにしていた人もいた事は事実だ。要は会運営をして行く幹事、責任者の存在が鍵だ。年老いて行く後輩に我々の体験を伝え参考にさせて戴こう。

●昭和26年卒

千葉 滋胤

中学校のグラウンド整備も着々と進み新年度には完成とのこと平和な時代、恵まれた施設で勉学にスポーツに頑張ってもらいたいと思う。

中学・グラウンドといえは60年前の敗戦の年の5月を想い出す。配属将校山本少佐の教練の時間千葉大附属病院の方向から米軍P-51 3機が超低空(天蓋を開けたパイロットの顔まで見た)で飛来、機銃掃射を開始。「速やかに退避」の命令で防空壕に飛び込み難を逃れた。全員無事。

当時雨天体操場は日立の学校工場であった。米機は寒川沖埋立の日立航空機工場攻撃、工場は大きな被害を受けた。

私の記憶では千葉市の空襲は4回あった。6月は学徒動員で九十九里決戦に備え緑区大草に施設を工作中グラマンF6Fに襲われた。この時も全員無事。

グラウンドはスポーツだけでなく、大災害を予想した対応も運

用により可能だと思ふ。

●昭和27年卒 (二七会)

中村 作二

傘寿記念同期会

我が二七会は隔年ごとの6月6日に同期会を開催しています。が、この3月末で全員80歳になるので、今年は傘寿記念の会になります。

これまで毎回100名を超える出席者があったのが自慢で、今年も100名以上が集まると「二七会あつぱれ」といわれたいと思つています。ゴルフ会も50年目を迎えて、4月に第132回のコンペを開催します。

想えば我々の小学生時代は、まさに太平洋戦争中でした。そして戦争末期から戦後しばらくの間、育ち盛りの時の食糧事情は筆舌に尽くし難いひどいものでした。それでも現在既に平均寿命を超えながら、265名(卒業生の71%)のメンバーに同期会開催の案内状を出せるのは幸せなことだと感じています。

●昭和28年卒

日暮 正信

昨年の二八会は記念すべき60回目の例会。38名の仲間が参集しました。勿論、若い早川先生もステッキ姿で登場。杖ではあ



りません。この総会とは別に各クラスの会も続いています。当初はA～H組まで各組開催していたようですが、恩師が亡くなられたり、幹事役が動けなくなると、自然に終わってしまいました。そんな中、今でも休まず続けているのが、F組とH組です。特に、H組は担任の早川先生が元気なので、まだまだ続きそうです。この組は3年で地学選択の男子ばかり。中には1年、3年と2回も地学を勉強した生徒もいます。お蔭で気象の知識は気象予報士、天体もプラネタリウム解説者並み、理科系のNPOで役立っています。

*写真は3日組の集合写真。女性「ゲスト」です。

●昭和29年卒(福の会)

小野口 勝世

今年も例年通り総会、旅行会、忘年会を開催。

総会は6月23日千葉京成ホテルで、60名参加、早川先生にもご出席いただき、大いに楽しみました。

旅行は9月初旬、富士山の世界文化遺産登録を祝って、三保の松原を散策、焼津泊りで19名が参加しました。

忘年会は12月21日錦糸町東武ホテルで40名参加、今年のうさを晴らし、夕方からはスカイツリーに登り、東京の夕景、夜景を楽しんでまいりました。

我々の年令は、男子はもうじき日本人平均寿命に達しますが、まだ俺も元気だと思っている同期生、26年も三つの会を、行いますので、是非参加して下さい。お待ちしております。

●昭和31年卒(三二会)

山中 齊

瞬く間に1年が過ぎ去り、今年もまた同窓会総会の時期を迎えた。

霜礼次郎同窓会長は、就任以来今日まで、同窓会の周年事業や新生千葉中の施設整備事業など数々の課題を着実にクリヤーし、母校の発展に限りない尽力

をされていて、まさに我ら「三二会」の誇りである。

多感な青春の日々を葛城台上で共にした我々に、六十年という歳月が、今にして思えば瞬時に通り過ぎていった。

そして、今や「三二会」員の全てが後期高齢者となった。

過ぎし日学んだ漢詩「偶成」の最後のフレーズ「階前梧葉既秋声」が時に脳裏をかすめる昨今でもある。

本年、2014年は我々が喜寿を迎える年、「三二会」の仲間で盛大に祝いたいものである。

●昭和32年(定) 卒

福原 肇

さんには会はず元氣を取り戻しサンライズ九十九里で一泊二日の同期の集いを開催しました。

遠くは伊豆下田から、医療機器を部屋に設置させ参加の友、参加者は予定の半数近くになったが、温泉に浸かり宴会は、夏グルメ特別プラン海鮮鉄板焼きで一杯、話題は学窓時代が主で楽しい一夜を過ごしました。

翌朝早起きして若葉区野呂町に大池の睡蓮見物に案内し薄黄色一面に咲く池を眺め感動「花は朝ひらく」ここで流れ解散。

小生思う、集まることに依り『人心地』を取り戻し皆、それぞれの生き方で健康を保ち、頑張



る姿に感銘しました。次回は喜寿の集い…元気で居たいが、家を離れる旅は無理かも…?

●昭和36年卒

田那村 宏

古稀を向かえたばかりですが、同期の多くが午年の年男・年女と、早いもので6度目の干支が巡ってきました。社会では高齢者と一括りにされます。しかし、未だ未だ健康で元気に社会貢献をしている同期生も見られます。2025年には、65歳以上の人口が3割を超えるとされます。分子が1で、分母が3。健康で分母になつて次の干支を向かえ

たいものです。

さて、平成10年から2年に1度のペースで同期同窓会を開催してまいりました。昨年のクラス幹事会で次期開催については卒業55周年(平成28年3月)にあたる(を目途として、平成27年秋の日曜日正午頃、千葉市内の会場を予定しています。また、各支部の葛城会等で、同期の方々が活躍しています。

●昭和38年(定) 卒

志賀 吉郎

例年、定時制同窓会「葛の花会」の総会に、同期生が数人出席している。

総会の後に二次会を行っている。と次の同期会は、何時、開催するかが、話題になっている。

卒業して、50年。節目節目に同期会を開催してきている。

今回も開催する時期となり、古希を迎え、同期の計報が寄せられると開催間隔を短くし、会う機会を増やそうと考える。

数年おきを2年にすると、か、間隔を短くし自分の体力の減少、看護や介護、孫の養育のなど事情が重なって出席できない同期生が少しでも多く集まれることを願っている。

●昭和39年(定) 卒

三井芳夫

毎年6月に葛の花総会が開催されています。同期会は私の気まぐれで不定期です。今年は4月20日千葉駅前居酒屋土風炉で13名の出席が有り、カンタス航空で勤務を終えたAさんがその後の仕事の合間に久し振りの出席で皆さんが喜んでくれました。この数年の返信には当日仕事があり残念乍ら欠席ですが次回は必ずが目立ちます。M君は千葉大職員でしたが定年後、次が幾つか変わり現在は市原市より四谷へ通って、これが最後だからあと1年待ってくれと皆さん、仕事がある事は本当に幸福な事です。私たちは来年3月で卒業50年に成りますので毎年同期会



が出来ればと思い、今年の同期会の席で、来年からは、年2回の企画します。市内在住が少なくお開きが早い為こんな時間に帰されても困るワの声もありますが、気持ち良く出してくれるご主人奥様に感謝して下さい。次が有りますから

●昭和43年卒

伊藤三平

同期会ホームページ開設は早い方であるが、掲示板の計報連絡や同期からの弔文が増えてきたので「故人の思い出」というページを作成した。33名になる。456名に対して約7%であるが、消息不明者80名の中にも物故者はおられる可能性もある。残念だが、同期全体で見れば、戦争が無い時代を過ごしてきた幸運や、医学の進歩、在住地域が大震災など遭わなかったことなどに感謝すべきと思う。

同時に「同期の表彰・話題」というページも新設した。これから叙勲なども増えてくるだろう。謙虚であり、自らの榮譽を報告してくることはないし、榮譽を追い求める同期は目に付かないが、人間、最後は名譽欲とも言つたいと言ふことだろうか。

●昭和44年卒

森茂

『健康貯筋』

還暦を少し過ぎました。先輩方に聴くと、酒の席での話題の中心が「病氣自慢」「孫自慢」で発展性が無い、とのこと(ナルホド)。

さて、お金や時間は使うと減りますが、使えば使うほど増えるものがあります。それは筋肉(他にもあります)が。表題の「貯筋」です。筋肉は骨格を支え、正しい姿勢を保ち、また身体を前後左右に動かしてくれま(体操のシライ君、見事です)。脳もいわば筋肉のようなもので、使う程よろしい。サッカーでも「頭を使う」ことが大切なのは、ヘディングだけではないうです。健康寿命を延ばしながら、第一線は若い方にバトンタッチして、ここまで生き残る中で培ってきた知恵をテコに、頭と身体そして心にも磨きをかけて、次の世代や地域のために使いたいものです。

「うつくしいものを美しい」と思えるあなたのころがうつくしい。」 相田みつを ※本年は同期会の準備年になります。同期の皆さんの協力を得て、今年か来年には、第5回同期会を開催したいと思っています。お元気で!

●昭和49年(定) 卒

先田幸次郎

平成23年度葛の花総会に於いて副会長に選任されました。

我が母校も教育改革の変革に伴い、64年間続いた定時制課程が閉課され、平成20年から中高一貫の教育が始まりました。

小生、36年に亘る防衛省勤務を無事に定年退官しました。その間、名譽ある常任理事として陰ながらお手伝いさせて頂きました。

今後は微力ながら同窓会副会長として会務に専心努力致す所存であります。

役員諸兄のご支援とご期待を得て選ばれた以上、同窓生各位のお力添えをかり会長を補佐して行きたいと考えております。

敬礼

●昭和50年卒

園部 創

年末に同期を一人亡くした。

病氣だった。あの懐かしう楽しかった高校生活を一緒に過ごした仲間がまた一人減ってしまった。悲しく、実に淋しい。いよいよ我々も人生の終盤に差し掛かったことをあらためて意識させられた。

今年58歳を迎える我々は、大同窓会にあつてはまだ若手に見

られるが、社会ではまもなく卒業を迎え、初老となる一歩手前にいる。

日本人は60歳以降をどちらかというと自分の人生はだいたい終わって、あとはオマケ的に考えがち。ところが欧米では退職してからが人生の本番で、子供から手を離れ、仕事から自由になって、これからは自分の好きなことができることにアグレッシブだ。老後になってようやく自分らしい生き方ができると考えている人が多いそうだ。

長寿大国なのに年金支給の先延ばし、熟年離婚、病氣などの落とし穴もあり、自分の老後は自分で守らなければならないという切実な問題もある。

そんな中で、「今をどう生きる?」と自分に問い掛けてみると、やはり楽しい余生を送りたいという思いが強くなる。欧米型の前向きな、自立心のあるセカンド・ライフを送るためにも、やはり「友」が重要なポジションにあると思う。

この1年は、久しく会っていない友人にもコンタクトしてみたい。

●昭和57年卒

土屋保之

平成25年9月7日、錦糸町の東武ホテルにて、第2回同期会

を開催しました。50歳記念の今回は恩師7名と同期93名が集まり、旧交を温めました。卒業生全体の4割が参加し、身動きが取れず、料理がほとんど残ってしまつた3年前の熱気とはまた違って、落ち着いた空気の中でゆっくり料理も楽しみつ、再会を喜び合うことが出来ました。初参加が22名を数え、2回の同期会通算で、182名が集った事になります。また、第1回より7名増えて20名となった世話人会+事務局方式による運営で、既にメールだけでも260人を超える人に連絡出来るところまで来たので、次回以降も初参加が増えるよう、日程・場所等工夫していきたいと思ひます。

●平成14年卒

笠井 さやか

フリーアナウンサーとして活動していますが、以前在籍していた千葉テレビの仕事もいくつか継続し、千葉に関わるスポーツやイベントを通して母校との関わりが続いていること嬉しく思っています。

高校野球番組では、突撃ラッパで同窓会でもお馴染み、昭和22年卒の齋藤喜久三さんの特集させていただいたり、在学時代の担任で、現在も千葉校の先生でいらつしやる五木田先生に再



会したり、千葉市のベンチャー企業コンテストの司会をした際には、審査員でOBの方々「応援してるよ」と声をかけて下さり、母校の繋がりの深さを実感し心強く感じました。今後OB、OG、在校生の皆さんとお会いする機会を楽しみにしています。

●平成18年卒

長尾 庸子

先日、プレジデントFamilyにて「公立中高一貫校の星「ケンチバ」に突撃訪問!」という記事が掲載されました。「中高一貫校化の目的は大学合格実績の向上ではなく、社会に貢献でき

る人材の育成である」という趣旨の記事だったのですが、その中で大きく取り上げられていたのが「総合学習」でした。

担当の先生の下で研究・発表を行うこの授業は、私たちの入学年に始まりました。研究の質は年々高まり、国内・国外の様々なコンテストでの優秀な成績につながっているそうです。後輩たちの努力と、それを見守る先生方の姿が目につかびます。

千葉高生の進路は十人十色ですが、ここで育まれた精神がそれぞれの場所で生かされることを切に願う今日この頃です。

●平成24年卒

溝花 弘登

先日、柔道部の友人と後輩の練習に訪問しました。今年は柔道部、ラグビー部が関東大会に出場しましたが、実はこれは柔道部で何年も目標にされてきたことで、後輩が達成してくれて非常に充足感がありました。今年私は私たちが3年生の時の1年生の大学受験の年であり、千葉中学校にとっては卒業生が初めて大学受験に臨む年でもあります。そちらの結果も卒業生として期待して待っております。さて、去る1月11日、64期同期生の成人記念同期会が催され、250名以上の卒業生が集



まりました。成人記念同期会としては過去最高の参加人数で、改めてこの学年の結束の強さを感じました。また、恩師の先生方も多く参加してくださり、卒業生が皆喜びの声をあげていました。2年ぶりに再会した友人達は、在校時の面影を残しながらも、明瞭さに差はあれどもそれぞれの夢に向かって確実に進

み、成長している姿が眩しく感じられました。千葉高が、それほど人に恵まれた環境であったかしみじみと感じました。成人という大きな節目に、良い思い出が作れたと思います。最後になりましたが、同期会の開催に多大なお力添えをいただきました同期会事務局長の阿佐幸雄様、63期代表の岡本奈生加様に、この場を借りて御礼申し上げます。

●平成25年卒

山口 遵

卒業から既に1年ほどの月日が過ぎ、一膳坂という滑走路から同期生の皆さんがそれぞれの夢に向かって飛び立ったあの卒業の日がはるか遠くに思えるかもしれません。きつとそれは、光陰というよりむしろ、皆さんの巣立ちが矢のごとき勢いであり、またあらゆる物事との新たな出会いと、千葉高の素晴らしい先生方や友人と共に育んだ精神と教養が、皆さんを目的地へと加速させてきたからであります。

来年の同期会での皆さんの笑顔はきっと、卒業アルバムのそれに一味加わった、より素敵なものとなっているはず。皆さん、くれぐれも健康には気を付け、ぜひ同期会でお会いしましょう。

千葉県立千葉中・千葉高教育環境整備支援事業 運動場拡充のための募金寄附者一覧

平成25年1月16日以降にご寄付頂いた方を金額順に掲載。同窓生は卒年・50音順に掲載、敬称略。

【団体・会員外寄付者】

- 【3百33万6千円】(株)アンターク本舗
代表取締役 黒須浩二様(昭37)
【28万円】千葉高二八会様(昭28)
【15万円】昭和61年バレー部卒業生様
【10・6万円】49年会様(昭49)
【10万円】千葉高野球部OB会様、葛城美実会様(昭23中卒、昭24高卒)、県千葉ラグビー部OB会様
【9万円】千葉高30年会有志一同様(昭30)
【5万円】千葉高等学校前事務長 千葉良夫様

【同窓会員寄付者】(以下敬称略)

- 【30万円】辻隆之(定昭31)
【25万円】豊田聡(昭57)
【20万円】西村元秀(昭20・5)、市川勝己(昭39)、山田雅敏(昭39)、内藤佳實(定昭43)、藤岡治人(昭52)
【16万円】渡辺宗平(昭30)
【10万円】田那村昇(昭18)、菊池武昭(昭26)、豊田和孝(昭29)、秋葉忠昭(昭30)、宍倉正胤(昭30)、市川豪一(昭32)、篠崎玄幸(昭33)、片岡寛昭(昭35)、斎藤浩一(昭36)、中野英昭(昭36)、蓮見高純(昭40)、那須初江(昭41)、伊藤博史(昭42)、西村和己(定昭44)、池田玲子(昭46)、鍋倉辰彦(昭46)、永野明宏(昭49)、羽田徳治(昭49)、深川義夫

- (昭49)、山本喜一(昭51)、寺嶋真理子(昭55)、佐々木浩志(昭56)、西見大成(昭57)、三井賢一(昭57)、高山典子(昭58)、藤本美和(昭60)、横田淳(昭60)、神谷佳秀(昭62)、菊池昭子(昭62)
【5万円】小野武(昭36)、戸村道夫(昭58)、和泉武人(昭60)
【3万円】浅野武秀(昭38)、武田行三(昭12)、大澤肇(昭20・5)、三枝邦行(昭26)、岩田裕(昭28)、川村不味(昭28)、櫻井顯昭(昭31)、鳥居一雄(昭31)、岩田幸枝(定昭32)、高師弘子(昭36)、野際英司(昭43)、豊田淳郎(昭47)、田中進(昭49)、玉岡迅(昭50)、山田千代子(昭56)、野木裕子(昭59)
【2万円】若林 茂(昭25)、阿部猛(昭28)、土岐和男(昭29)、門馬 郷(昭30)、土井保男(定昭32)、荒井敏子(定昭33)、二星嘉彦(昭33)、松本敏之(定昭36)、古山勝美(定昭43)、橋本 広(昭54)、中臺一仁(昭58)、畔上幸士(平3)
【1万円】篠崎敏夫(昭17)、秋場秀一(昭20・5)、足木茂和(昭20・5)、土屋剛(昭21)、川島雄次(昭22)、篠崎映介(昭26)、高山浩明(昭26)、長谷川信夫(昭26)、藤井真吾(昭26)、若井貞行(昭27)、安藤伸治(昭28)、岩崎素久(昭28)、小川慶治(昭28)、秋元孝子(昭29)、石橋敏夫(昭29)、助崇一(昭30)、井上悦子(昭30)、今村輔之(昭30)、上

- 田喜章(昭30)、江川隆之(昭30)、江口義明(昭30)、佐川皓一(定昭30)、齋藤千廣(昭30)、助川美智子(昭30)、鈴木敏夫(昭30)、矢島英治(昭30)、高沢正(定昭31)、高橋 宏(昭31)、武津岡清光(昭31)、山中洋介(昭31)、市原康一(昭32)、内山照男(定昭32)、阿部三樹(昭33)、鍛田 達昭(昭33)、向後忠邦(昭33)、真方カズ子(昭33)、須藤康夫(昭33)、西川泰夫(昭33)、西巻 孝(昭33)、強崎暉朗(昭34)、坂本晃宏(昭34)、馬場信光(昭34)、石川昭則(昭35)、小倉伸男(昭35)、後藤秀臣(昭35)、腰塚直己(昭35)、濱賀宣昭(昭35)、石川駿二(昭36)、櫻井恭子(昭36)、中台勲(昭36)、丸山素子(昭36)、波多野祐義(昭37)、小出英夫(昭38)、河西亨(昭39)、樋田英剛(昭40)、今井和彦(昭41)、御園 一成(昭41)、並木厚(昭42)、水上健(昭42)、村山元信(昭42)、勝田信一郎(昭43)、武富裕次(昭43)、山澤正博(昭44)、二宮康(定昭46)、桜井英津子(昭46)、佐渡斉(昭47)、御代川 薫(昭47)、水上修子(昭47)、嶋田政昭(昭49)、川添公貴(昭51)、戸田山みどり(昭52)、伊澤玲(昭54)、森塚伸(昭54)、本田雅秀(昭56)、井上茂夫(昭57)、松嶋文靖(昭57)、鈴木洋人(昭58)、中田江美(昭58)、安田尚弘(昭58)、山崎健二郎(昭58)、小島桂子(昭61)、藤井文(昭62)、友右俊江(昭63)、光永寛(平3)、瀬尾梯介(平4)、小松慶(平12)、櫻井康晃(平12)、小宮大輔(平13)、田中良法(平14)、杉本真以(平15)、矢島丈久(平17)、生駒洋明(平19)、杉本淳(平20)、御園生諒(平20)、杉本芽以(平21)、清水翔(平23)、栗山智宏(平24)、矢野翔一郎(平24)

葛城だより

◎平成二十五年受章者
心からお祝い申し上げます。

- 瑞宝小綬章 篠崎兵衛(昭17)
社会教育功労賞 高山 昭(昭25)
旭日瑞宝章 木村正信(昭28)
瑞宝小綬章 長谷川美行(昭28)
瑞宝小綬章 木村 卓(昭31)
瑞宝双光章 櫻井 顯(昭31)
瑞宝小綬章 高山明徳(昭32)
瑞宝小綬章 寺本敬彦(昭33)
瑞宝小綬章 伊藤貞雄(昭34)
瑞宝単光章 櫻井詮子(昭34)
瑞宝小綬章 時谷暢明(昭34)
瑞宝重光章 岩井 俊(昭36)

《敬称略・卒業年順》

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈りします。

- （ご連絡のあった方のみ掲載）
鈴木道三(昭15) 25年2月4日
吉田昭三(昭20・4) 25年8月
近藤和男(昭20・4) 25年10月12日
石川江巳(昭31) 25年12月19日
村山元信(昭42) 25年10月17日
宮島康雄(元職員) 25年12月14日
《敬称略・卒業年順》

◎寄付者(同窓会宛)

心からお礼申し上げます。

- 昭和46年卒同期会 平成25年度総会幹事年度 200,000円
平成25年卒業生 264円
《敬称略》

編集後記

◆今年もたくさんの方の原稿をありがとうございました。ところで、先頃政府の教育再生会議から、達成度テストの提言が成されました。思えば、30数年前、新しい試験方式である共通一試験が始まるというので、文化祭で、それを振った出し物を企画した事を思い出しました。本当に実力のある奴は何をやっても受かる。などと思いつつもどこか不安だったことを覚えています。改善は良いことでしょうが、振り回されるのはいつも当の受験生と現場の教員です。どうか、徹底的に話し合った上での素晴らしい改革にしてもらいたいものです。

山田英文(昭54)

◆新しく同窓会報の編集担当となりました。よろしく願っています。この会報の中では私がダントツの最年少になろうかと思えます。卒業から5年、同期の仲間とはいまだに旅行に行くなど、強いつながりがあります。大先輩の方々の記事を読ませていただき、改めて今のこの千葉高のつながりは、これからも大事にしていきたいと思いました。 松井洋平(平21)

◎訂正のお詫び

昨年会報42号にて、雪どち会様(代表湯上潤三・昭26)よりのご寄付を金額を間違えてご報告致しました。

誤 3万円→正 5万円

謹んで深くお詫び申し上げます。